

当院 COVID-19 入院患者におけるポータブル X 線撮影の検討

法人名 神奈川県厚生連
病院名 伊勢原協同病院
職種・所属 放射線室 放射線科
発表者氏名 小野寺幸紀 梅津香那 杉山晴香 三ツ橋早紀
平井良 大胡田修 中島正俊 大川伸一

【はじめに】

COVID-19 の流行拡大に伴い当院でも感染者の入院病床数が増加した。それに伴い同じ病棟で複数の COVID-19 患者の対応ができるようにゾーニング(汚染・清潔区域区分)が行われた。我々もゾーニングがされている区域での複数人のポータブル撮影を同時にできるよう検討を行ったので報告する。

【方法】

複数の COVID-19 患者を受け入れている病棟でのポータブル撮影におけるゾーニング、个人防护、ポータブル装置の養生についての検討を行った。

【結果】

清潔区域でポータブル装置にコニカミノルタ製画像診断ワークステーション(CS-7)を取り付けた状態でビニール袋、テープ付きビニールを用いて全体的に覆い養生を行った。患者に触れる撮影フィルムフラットパネルディテクタ(FPD)もビニール袋で覆った。撮影者は清潔区域で个人防护の着用を行った。イエローゾーン(脱衣区域)よりレッドゾーン(汚染区域)に入り、各病室にて撮影を行った。複数の患者を撮影する際、清潔区域に戻らず撮影を続けるために、技師の触れる X 線管球、操作パネルの部分を患者の数に合わせて複数枚のビニール袋で覆った。一人撮影するごとに触れた部分の一番外側のビニール袋のみを外した。FPD の養生も同様に患者の数に合わせて複数枚のビニール袋で覆い、撮影後外側のビニール袋を外した。手袋を取り替え、触れた部分を清拭し、次の患者の撮影を行った。撮影後はイエローゾーンへ入り装置の全ての養生を取り外し清拭後、个人防护衣の脱衣を行い清潔区域に入った。以前は病室内で撮影をする技師と、室外で画像を確認する技師の 2 人体制で病棟のポータブル撮影をしていたが、今回ゾーニングが行われてからは一人で撮影から確認まで出来るようになった。

【結論】

ゾーニングが行われたことにより、一度に複数人の COVID-19 患者のポータブル撮影を行うことができるようになった。そのため物品の削減と業務の効率化が図ることができた。